

Linked Open Dataと 学術・公共情報流通

> 国立情報学研究所 大向 一輝 @i2k

自己紹介



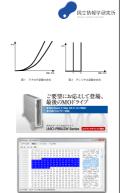
- ・コンテンツ科学研究系・准教授
 - セマンティックウェブ・ソーシャルメディア
 - ・オープンデータ
- コンテンツシステム開発室長
 - · CiNii Articles / Books
- ・株式会社グルコース
 - RSSリーダー・Twitterクライアント
- 「ウェブらしさを考える本」
 - 全文公開中



国立情報学研究所

知識は失われる

- 壊れる
- 物理的損壊・エラー
- 読めなくなる
 - ・ 記録メディアのライフサイクル
 - ・ソフトウェアのライフサイクル
- 意味がわからなくなる
 - 社会のライフサイクル
- 「データの保存」とは
 - ・コピー?
 - ・ バックアップ?
 - 使う



知識インフラ





活用・創造する

- 組み合わせ・変換
- 公開・発信する
- ・次の収集プロセスのために
- ・ 知識インフラの役割
 - 時間・空間を超えて使われ続けるようにすること
 - ・ 未知の誰か・未知の用途のため
 - ・オープンかつ共通の基盤が必要

データの価値を高める

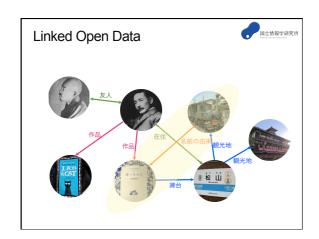


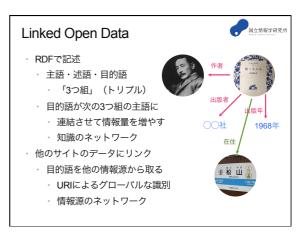
- ・他分野の知識とつなげる
 - ・相手の知識を豊穣に
 - ・自身を豊穣に
 - 新たなつながりを見出す
- 新たなユーザを発見する
 - ・すぐに使える形で提供
 - 理解しやすく使いやすい
- Linked Open Data (LOD)

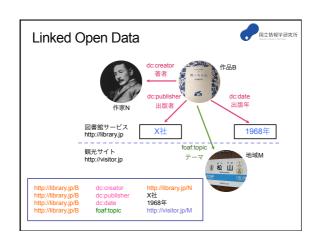
Linked Open Data

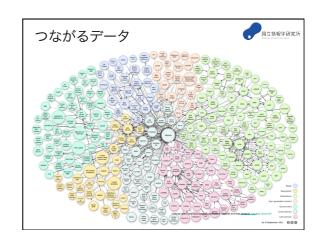


- ・セマンティックウェブ
 - ティム・バーナーズ=リーが提唱
 - ・ 機械可読なフォーマット
 - ・厳密な知識表現とオントロジー(辞書)
- · Linked Open Data
 - ・セマンティックウェブの実践
 - ・データのオープン化・構造化を中心に
 - 多様な情報源・データベースが存在
 - · API・マッシュアップに親しんだ開発者の存在
- 文書のウェブからデータのウェブへ









LODの利点



- ・ 標準化による分業体制の確立
 - ・ データの書き方:RDF
 - ・ 分野のスペシャリストはデータの記述に集中
 - ・ データの取り出し方: SPARQL
 - ・ RDFストアのクエリ言語
 - アプリケーション開発者はユーザインターフェイスに集
 - ・ データの取り出しに独自プログラムを必要としない
 - TXT・CSV・XLS・XMLとの相違点

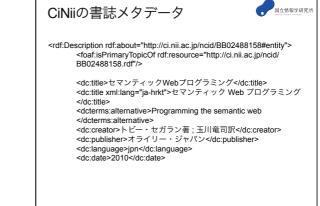
学術情報とLOD



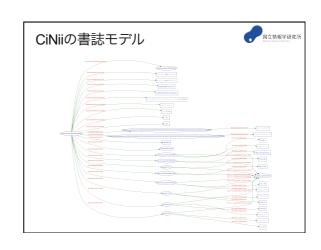
- 学術情報分野の特徴
 - ・ 情報の構造化を生業とする職業集団・組織がある
 - ・ 研究者(大学・研究機関)・学会・図書館...
 - ・ 情報の構造化フォーマットが共有されている
 - ・ タイトル・著者名・抄録・本文・参考文献...
 - ・「何を」「どう作る」は解決済み
 - フォーマット変換のみ
 - 正面 英明
 TAKEDA Hideaki
 田立境等学研究所
 National Institute of Informatics
 Informatics
 TAKEDA Hideaki
 田立境等学研究所
 National Institute of Informatics
 Informatics











・語彙と構造をどのように決めるか ・標準化された構造はない ・まったく同じサービスは存在しない ・日本独自の事情(よみ) ・語彙の重複・独自語彙の必要性 ・厳密性と利便性のトレードオフ ・方針 ・シンプルなデータ構造 ・ライブラリの普及状況を念頭に ・世界標準に準拠

CiNiiのメタデータデザイン

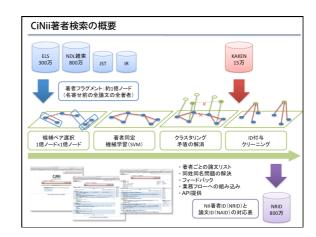


CiNii著者検索



- ・ NII著者ID (NRID) の導入
 - ・ 科研費番号+機械処理による著者へのID付与
- 著者ごとのページを生成
- · NRIDベースの論文検索機能
 - ・ 著者名→IDリスト→論文リスト
 - ・ APIの提供
- 新たなデータ生成・管理モデル
 - 研究成果の活用
 - ・ユーザーフィードバック





CiNii著者検索



- · ALS (Author Linking System)
 - · i-Linkage (NII相澤教授) の大規模・実運用システム
 - ・ CPU32コア・メモリ320GB・計算時間5日(全件処理)
- フィードバック(同一人物の報告)
 - ・機械処理だけで100%の精度を得ることは不可能
 - あらかじめフィードバックを織り込んだシステム・アルゴ リズム設計
 - 例:過統合より未統合を指摘する方が簡単
 - ・ 実績:6217件(4月1日~7月15日)
 - Researchmap経由で研究者本人からのフィードバック も可能に

CiNiiのデータ共有



- ・ ウェブAPIコンテスト ('09・'10)
 - ・Twitter・地図・学術DBとの連携
 - ・専門家を探す・志望校を選ぶ...
- アクセス数







LODをつくる



- · LODAC (Linked Open Data for ACademia)
- 国内の学術情報・公共情報をLODで公開し、共有を促進
 - ・学術分野のみならず、広く情報を共有するための情報流通基盤 の構築
- ・ 複数の情報源・分野にまたがる情報を共有するためのモデル構築
 - データ構造・スキーマの違い
 - 情報の同一性

http://lod.ac

・現在の活動

・ Museum:美術館・博物館情報(人文科学) ・ Location:地図・地名情報(公共・公的情報)

· Species:生物情報(自然科学)

LODAC Museum



- ・ 美術館・博物館情報の統合と共有
 - ・ 日本国内に6000館以上
 - 資料情報は個別管理
 - 網羅的な検索・調査ができない
 - ・ 資料間の関連が不明
 - ・ 集中管理は可能か?
 - ・ 決められた枠内のメタデータでは資料情報記述に対応できない
 - ・ 情報が欠落する可能性
 - 細かすぎると使われない
 - ・ そもそもどのような属性項目があるのか不明

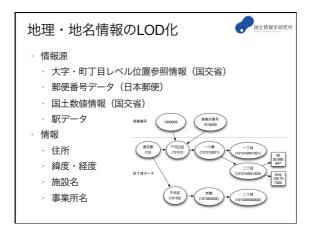
24













ヨコハマアートスポット



- ・地域コミュニティとの連携
 - ・横浜市文化芸術振興財団/横浜LODプロジェクト
- ・アートイベントのLinked Data化
 - ・施設情報をキーにした位置情報・イベント情報・ 作品情報のリンク
 - フロー情報からアーカイブを作る
 - ・SPARQLでアクセス





その他のアプリ



- · CiNii x BDLS
 - ・生物学辞書によるキーワード拡張
- DashSearch for SPARQL
 - 試行錯誤を許す検索インターフェイス
- ・オープンハウスつながりマップ
 - ・論文・研究報告書から見るネットワーク
- MMapp
- ・国際会議支援サービス
- · SPARQL+UI

今後の課題



- 「生データとの格闘」
- ・データ量の拡大
- ・ 対象の拡大
 - · DBpedia日本語版(Wikipedia)
 - · Wordnet日本語版(シソーラス)
- メタデータをつくるためのワークフロー
 - ・ 1次情報源に委ねるために
 - メリット・インセンティブの設計
- ・ メタデータの流通・2次利用
 - ・ライセンス

オープンデータの潮流



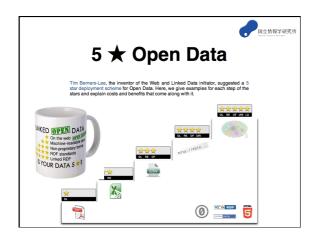
- オープンガバメントの潮流
 - ・政府・行政機関のデータ提供
 - ・アメリカ・イギリス・
 - · 鯖江市・会津若松市・流山市... オープンデータの取り組み
- TOP > 組織 > 情報政策課 TOP > 分野 > LC T. サービス TOP > 属性 > すべての方へ

一会律名松市

- ・総務省・経済産業省...
- ・ サービス向上・透明性・コミュニケーション

データシティ舗江(XML,RDFによるオープンデータ化の推進) 賃報設計選 博物駅計グループ SC-JohoTokel@city.sabae.kg.jp 電話番号:情報脱計グループ (情報) 0778-53-2213 情報記計グループ (情報) 0778-53-2212







まとめ



- ・何のためのLOD?
- ・公開すること自体の重要性
- ・ドメイン内の利用
- ・ドメインを超えた相互利用・共有
 - ・自身が持つデータの新たな価値を知る
- 「Information wants to be linked」